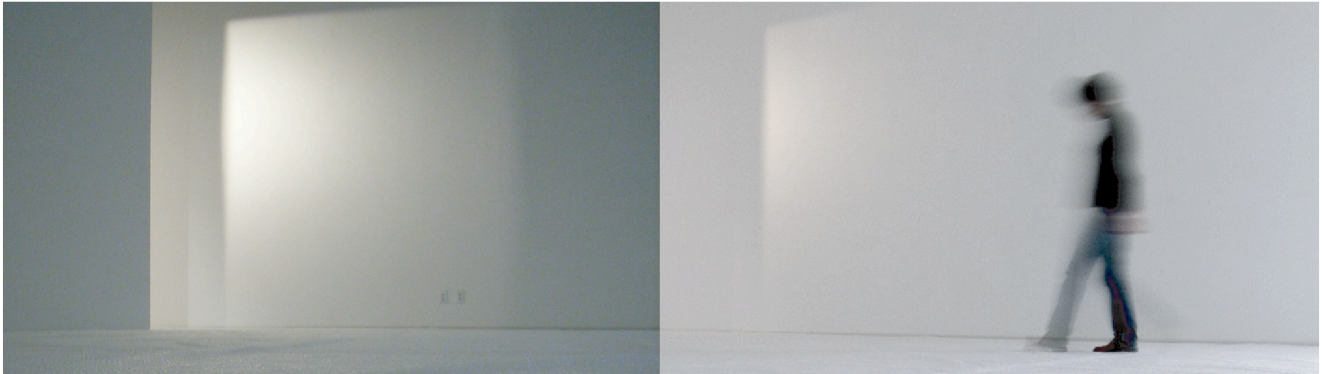


## ARTCOURT Gallery

Contemporary art and Design

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN



建築する音 vol.1 2006年展覧会風景

藤本由紀夫 × 建築家 × アートコートギャラリー

### 「建築する音 vol.3 — ミクロコスモス」開催のご案内

今日、「アート」の表現形態はこれまでにないほど多様化し、それに伴い「アートを鑑賞する」という行為もきわめて多面的になっています。アートと鑑賞者を媒介するギャラリーもまた、両者の変化に対応する柔軟性を身につけ、これまでとは異なる新しいあり方を模索しなければならないとアートコートギャラリーは考えています。

そのような新たな方向性を見出すために、アーティスト藤本由紀夫と建築家、そしてアートコートギャラリーが共同で行なう実験的プロジェクト『建築する音』は今年で3回目を迎えます。今回はより実践的な試みとして、「ミクロコスモス(小宇宙)」というひとつの存在形態をモデルに、アートコートの空間を、作品を展示・鑑賞するための「箱」から、作品と人、そして人と人との相互作用を活性化させ、訪れる人の知的な好奇心を触発するサロンの「磁場」へと変容させます。

二日間にわたるプログラムでは、空間・人・作品が同等な構成要素として相互作用を促すユニークな装置を、藤本由紀夫と建築家たちが、さまざまなバリエーションで展開します。

この機会に是非、ドリンクやフード、おしゃべりを楽しみながら、アートコートギャラリーの空間構成の実験にご参加下さい。

#### 展覧会概要

◎展覧会タイトル: 藤本由紀夫 × 建築家 × アートコートギャラリー「建築する音 vol.3 — ミクロコスモス」

◎会場: アートコートギャラリー 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート 1F

◎会期: 2008年9月19日(金)・9月20日(土) 2日間のみ両日とも11:00開廊

#### 《プログラム》

◎2008年9月19日(金) 参加費: ¥1,000

19:00~藤本由紀夫と建築家によるトーク・デモンストレーション  
~レセプション(1ドリンク付)

◎2008年9月20日(土) 11:00~15:00

アーティスト 藤本由紀夫

建築家 : 東井嘉信(株式会社大林組本店建築設計部)・小林幹彦(阪神電鉄株式会社)・井上琢也(株式会社石本建築事務所大阪支所)  
東原理子(株式会社石本建築事務所大阪支所)・荒木 洋(AN Architects)・長澤浩二(AN Architects)

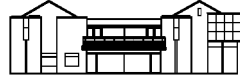
主催: アートコートギャラリー(有限会社八木アートマネジメント)

協賛: 三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、オー・エー・ピーマネジメント株式会社

●お問い合わせ: アートコートギャラリー

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449

E-mail: info@artcourtgallery.com URL: www.artcourtgallery.com



## ARTCOURT Gallery

Contemporary art and Design

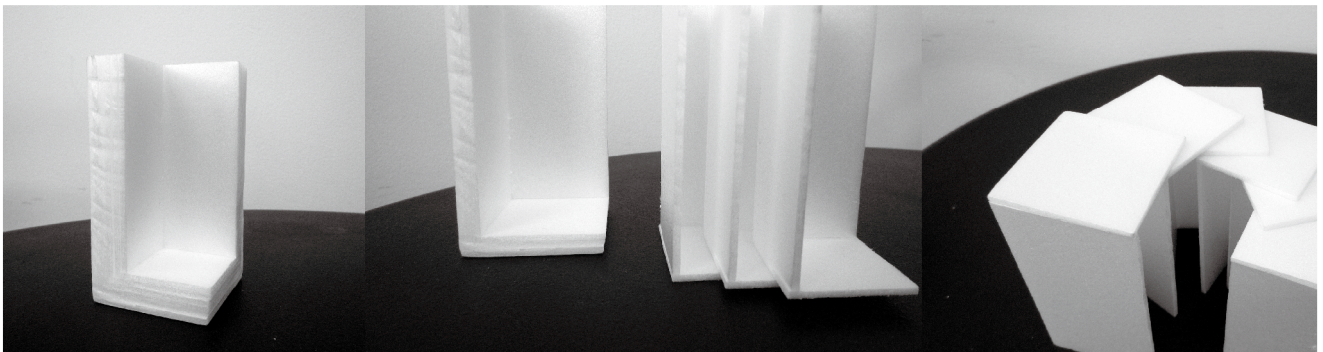
OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

### 《 ミクロコスモスとしての生成モデル 》

全体を構成する部分でありながら全体と同様のまとまり・構造を備え、全体との呼応関係にある「ミクロコスモス(小宇宙)」。それは世界というマクロコスモスに対して、ときに建築物であり、あるいはその中に住まう人間のことでありますが、宇宙、自然、社会、日常、人間といった世界のあらゆる側面から生み出されるアートもまた、複雑で有機的な世界の構造をその内に凝縮させたミクロコスモスといえるでしょう。

藤本氏の発想により、この「ミクロコスモス」が知的・文化的交流の場である「サロン」の概念と結びつけられ、『建築する音 vol.3』のテーマに据えられました。

そこを訪れる人が自らの考えや日常生活との関係のなかで、それ自身ある世界観を内包したアートと向き合う。人と人が作品をはさんで対話を始める。ギャラリー空間もまた、そこに集う作品と人々との間で交わされる相互作用によって表情を様々に変えると同時に、外の世界で起こるあらゆる現象との関係の中で自らを更新し続ける。このようなく社会 — ギャラリー — アート・人」というミクロコスモスの入れ子構造が、アートコートギャラリーの転換のための新たなモデルになるのではないかと、わたしたちは考えています。



### 《 建築家のことば 》

今回の企画はアートのある空間をどう考えるかということ、そしてそれをサロンのような空間にすることはできないだろうかというところから始まりました。

「サロン＝知識人が集い交流する場」

というのですが、今回は知識人のかわりにアート作品を用意して、ここに来た人は自分の思い思いの場所にアートを置いて、考えたこと、感じたことを語り合い楽しんでもらおうと考え、「アートを置く」という行為を演出する展示台を提案します。

この展示台、かたちはシンプルですが使い方に決まりはなく、

倒してみたり、

逆さにしてみたり、

ふたつ重ねてみたり、

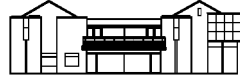
ときにはアートを鑑賞するベンチになったりと、

制限のない自由な使い方のできるものになっています。

この場所で、アートのある、思い思いの気持ちのいい空間をつくって、楽しい時間をお過ごし下さい。

AN Architects

荒木洋、長澤浩二



## ARTCOURT Gallery

Contemporary art and Design

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

### 《これまでの『建築する音』プロジェクト》



#### 「建築する音」vol.1

2006年3月10日[金]ー3月19日[日]

アーティスト 藤本由紀夫 × 建築家

東井嘉信(株式会社大林組本店建築設計部)

井上琢也(株式会社石本建築事務所大阪支所)

荒木 洋(AN Architects)・長澤浩二(AN Architects)

「建築物にアートはいらないが、建築にアーティストは必要だ」と述べる藤本氏。建築空間におけるサウンドアートの可能性について建築家と共にディスカッションを重ね、その成果を第1回目としてこの展覧会で報告しました。

「中世ヨーロッパにおいて、建築と音楽は比例関係を通じて密接な関係にありました。空間を構成することが建築であるとするならば、音楽とは、時間の流れを音によって構成することであるといえます。本展は、4人の建築家とサウンド・アーティストである藤本由紀夫が、アートコートギャラリーにおいて空間と時間を[com・pose](共に・置く、組み立てる)の試みです。アートコートギャラリーの空間の特徴として、ほぼシメトリーであることがあげられます。このギャラリースペースを鑑賞者が[outside→inside→outside]と自ら進むことによって、位置的対称と同時に、時間的対称が生まれます。この建築家・アーティスト・鑑賞者による[composition](作曲)によって、そこにある音楽、そこから生まれる音楽を再認識する建築空間、「建築する音」が表出するのです。」(プレスリリースより)



#### 「建築する音 vol.2ーThink with architecture」

2007年7月15日

アーティスト 藤本由紀夫 × 建築家

東井嘉信(株式会社大林組本店建築設計部)

井上琢也(株式会社石本建築事務所大阪支所)

東原理子(株式会社石本建築事務所大阪支所)

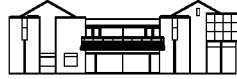
荒木 洋(AN Architects)・長澤浩二(AN Architects)

小林幹彦(阪神電鉄株式会社)

建築物をまるでアート作品でるかのような建築家の自己顕示欲的側面に対し、藤本氏が疑問を投げかけます。

この問いに対し、「『建築する』という行為が、プラクティカルな案件(施主の要望・予算など)を技術的に解決するだけなのであれば、『建築』というよりは『建設』という表現が相応しいが、『建築する』という言葉には文学的ニュアンスが感じられる。」と建築家。

『建築する音』第2回目の本展では、『建築』という本質的な意味合いについて「Think with architecture」をテーマとし、ミニマルな空間構成の要素(温度・明度・椅子の配列など)で、アートコートのシメトリーな構造を生かした対照的な空間を設え、ある一定時間で移動することにより導き出される空間認識と印象の変化に注目しました。



## ARTCOURT Gallery

Contemporary art and Design

OAP ARTCOURT 1F 1-9-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

### 藤本由紀夫略歴

1950 愛知県生まれ

1975 大阪芸術大学音楽学科卒業

#### 主な個展

1994 藤本由紀夫サウンドオブジェ展 (児玉画廊、大阪)、藤本由紀夫 版画展 (サイ・ギャラリー、大阪)

1996 オブライエンの部屋 (サイ・ギャラリー、大阪)

1997 廻るものの滑稽 (児玉画廊、大阪)、美術館の遠足 1/10 (西宮市大谷記念美術館、兵庫)

1998 A RED MOON (サイ・ギャラリー、大阪)、美術館の遠足 2/10 (西宮市大谷記念美術館、兵庫)

1999 美術館の遠足 3/10 (西宮市大谷記念美術館、兵庫)

2000 美術館の遠足 4/10 (西宮市大谷記念美術館、兵庫)

2001 AUDIO/VISUAL (ギャラリーキャプション、岐阜) PHILOSOPHICAL TOYS サイ・ギャラリー、大阪)

「四次元の読書」(CCGA 現代グラフィックアートセンター、福島)

美術館の遠足 5/10(西宮市大谷記念美術館、兵庫)

2002 in/out (京都アートセンター、京都)、美術館の遠足 6/10 (西宮市大谷記念美術館、兵庫)

2003 美術館の遠足 7/10(西宮市大谷記念美術館、兵庫)

AUDIO/VISUAL II (ギャラリーキャプション、岐阜)

2004 PHILOSOPHICAL TOYS II (SHUGOARTS、東京) 美術館の遠足 8/10(西宮市大谷記念美術館、兵庫)

2005 美術館の遠足 9/10(西宮市大谷記念美術館、兵庫)

2007 藤本由紀夫展「+/-」(国立国際美術館/大阪)

#### 主なグループ展

1996 柔らかく重く (埼玉県立近代美術館、埼玉/ライフ・ギャラリー、オハイオ)

写楽再見 (国際交流フォーラム、東京)、「トポスの復権」展2 (アサクラギャラリー、東京)

1997 アートラビリンスII 時の記憶 (岡山県立美術館、岡山)

ものとあわれ 新しい関西の美術家たち (和歌山県立近代美術館、和歌山)

4th 北九州ビエンナーレ 感覚の庭 (北九州市立美術館、福岡)

1999 五感の芸術 (クンストハウス、ハンブルク)

2000 震災・記憶・芸術 (川崎市岡本太郎美術館)、ガーデン (後楽園、岡山)

2001 第49回ヴェニス・ビエンナーレ (カステロ公園、ヴェニス)

among others 4(クンストラハウス、ドルトムント)

Facts of Life : Contemporary Japanese Art (ヘイワード・ギャラリー、ロンドン)

2002 遠藤利克&藤本由紀夫 (ニューリンアートギャラリー、ペンザンス)

本と美術 (徳島県立近代美術館、徳島)

2003 心の在り処—日本の現代美術— (ルードヴィヒ美術館、ブダペスト)

2004 心の在り処—日本の現代美術— (モスクワ現代美術館、モスクワ)

第一回大山子国際芸術祭 (大山子芸術区、北京)

マルセル・デュシャンと20世紀美術 (国立国際美術館/大阪)

2005 風景遊歩 (丸亀市猪熊弦一郎美術館/香川)

2007 第52回ヴェニス・ビエンナーレ (アルセナーレ/ヴェニス)

「関係-FUJIMOTO and, RELATIONS-」(和歌山県立近代美術館/和歌山)